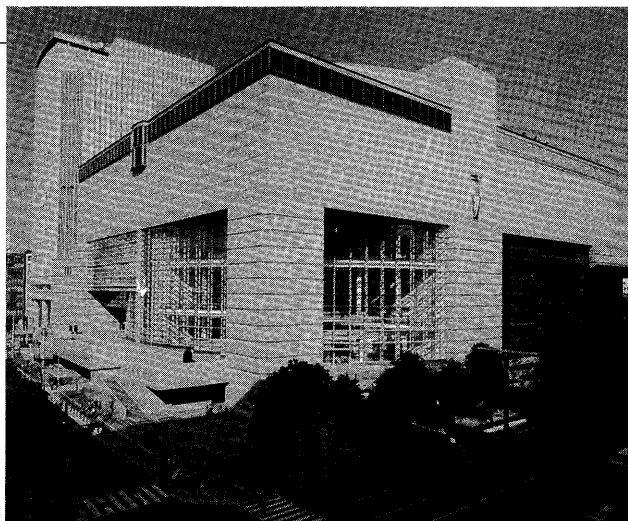


愛知県美術館

所在地：愛知県名古屋市東区東桜1-13-2

設置：愛知県

運営：愛知県



■館の概要

複合施設愛知芸術文化センターを構成する施設として1992年開館した。1955年に開館した旧愛知県文化会館美術館のリニューアル。所蔵作品展示と企画展に重点をおいて事業を実施できるよう施設を充実させている。20世紀を中心とする国内外の美術品や愛知県としての特色ある美術品の収集、保存、調査研究を中心に、年7回程度の企画展、収蔵作品展を行っている。また、美術団体や市民に作品発表の場としてギャラリーを貸し出している。愛知芸術文化センターは美術館のほか、愛知県芸術劇場(大ホール、コンサートホール等)や愛知県文化情報センター(情報コーナー、ライブラリー)などがあり、様々な芸術活動の場になっている。

■情報システムの概要

愛知県美術館の情報システムは愛知芸術文化センター全体の情報システムに組み込まれている。同システムは「芸術文化の教育・普及支援(多様化する住民の知的ニーズへの対応、情報探索支援、芸術鑑賞の場の提供)、芸術文化センターの利用促進(催事・施設利用などの案内・告知、芸術との出会い・ふれあいの場の演出)、運営管理業務の効率化(情報提供支援、学芸員の調査・研究業務支援、施設管理業務支援)を目的に構築され、1992年の開館時から稼働している」(同館資料より)。

システム全体は、来館者向けの情報サービス、館外情報提供、業務支援に大別されている。サブ・システムとしては、美術作品情報データベース、書誌情報データベース、ハイビジョンミュージアム、ビデオルームシステム、ビデオライブラリー、マルチビジョン、館内CATVなどがある。

1. 美術作品情報データベース

収蔵品管理システムを兼ねた美術作品情報データベースは、画像情報と作品に関する情報を蓄積し、学芸員などの求めに応じて検索・提供するものである。

美術作品情報データベースに画像として入力してあるデータは美術館所蔵の約3,200点のうち約150点。学芸員ならばだいたいどのようなものかがわかっているため、画像入力については余り積極的ではない。また、作品情報のうち修復情報については、どのように扱うかの国際的な標準化がなされないとなかなかデータベース化できないとのこと。

芸術文化センター全体でこのようなシステムを構築した点について学芸員は「施設管理

のようなシステムでは全体のことがわかり有効である」が、収蔵品管理システムと展示・映像系システムのような場合は「それぞれの特性を生かしたものが望ましいのではないか」と述べている。システム開発にあたっては開館に先だって県が研究会を設け議論している。

2. 美術作品情報検索システムは、公開系で、収蔵品を中心とした美術作品や作家情報を静止画像と文字情報を組み合わせて検索するものであり、上記1のシステムから情報を得ている。

3. 書誌情報データベース

文化情報センターの蔵書は約54,000冊。このほか11,000余りの楽譜を所蔵する。来館者は1階アートライブラリーおよび地下2階のアートプラザに設置されたパソコンで検索できる。館内のみならず、芸術文化センターの一部門である愛知県図書館ともネットワークで接続されている。

芸術文化情報システムの概要

